



第235号

発行 埼玉県神社庁
さいたま市大宮区高鼻町1-447-1
電話048(643)3542

編集 庁報室

印刷 株式会社アサヒコミュニケーションズ

目次

特集 県内各社の新型コロナウイルス感染症対策……………	2
「変わらない祈りのために」キャンペーン活動報告……………	6
ミニ講座「神主お悩み相談室 祭式編」報告……………	7
神道政治連盟埼玉県本部「時局対策研修会」報告……………	8
神宮大麻暦頒布始祭……………	8
立皇嗣の礼奉祝祭……………	9
庁務日誌抄……………	10
研修会開催のお知らせ……………	10
埼玉県神道青年会事業報告……………	11



立皇嗣宣明の儀 令和2年11月8日 宮内庁提供

特集 県内各社の新型コロナ感染症対策

一 武蔵一宮氷川神社

武蔵一宮氷川神社権禰宜
森田 豊

感染症の拡大により、まず問題となったのは手水舎の構造上の問題であった。当社の手水舎は水が底より湧く構造のために柄杓が必須で、当初は手水を止めるしか対策がなかった。しかし、信仰上、手水は欠かせないとの観点から、吐水口にパイプを刺し込み、プラスチック竹に接続、穴を開けて水を落とし、手に直接水を受ける形式とした。

参拝者に対しても、祈祷や結婚式が激減した頃、外出自粛となるならば、家庭での祈りの場である神棚を祀ることを呼びかけようと、自作ポ



ポスター

スターを社頭に掲示した。春の諸会議で、八月一日の例祭に付随した大宮駅前での神輿集結など、地域での催しは感染拡大防止のため、中止を発表した。神社も氏子地域からの神輿の渡御、勅使奉迎を中止とした。

例祭の参列も通常の半数とし、勅使参向は今までに無い静かなものとなった。翌二日の神幸祭も氏子輿丁奉仕の無い祭典となった。



例祭の間隔を取った座席の配置

祈祷は通常三十分毎であったが、土日や混雑する日は密集を避けるため、二十分毎の奉仕とした。参列はお宮参りと七五三は、お祝いの子と両親兄弟まで、その他の祈願は祈願主本人のみとした。

大湯祭は、例年通り十一月三十日より参籠し、祭典奉仕をした。分散参拝をしていたために、十二月十日のみの授与であった授与品を参籠初日より授与した。また、本来、元旦からの縁起物などの授与品も同時に授与し始めた。

十二月となると、報道機関から初詣の準備や対策について取材が殺到した。その影響からか、日中の参拝者も大変多く、職員は閉門間際まで対応に追われた。

十二月十日の大湯祭当日は、密集と飲食を避けるため、境内や参道に例年八百件程出店していた熊手業者や飲食屋台、街に出店していた飲食屋台も見合わせとなった。例年の熊手業者の掛け声や、人々の騒がしさも消え、落ち着いた日となった。

また、正月の感染防止のため、祈祷や授与品の郵送も受け付けることとなり、慣れない郵送作業や、感染防止を図った正月の準備など、想定以上に忙しい日々を追われている。



12月末の社頭の混み具合



大湯祭12月10日当日の昼の様子

正月初詣は、分散参拝呼び掛けにより、長期に亘りそうだ。参詣者二百万人を想定し、助勤者約二百名体制で臨み、感染者を出さないことを図ると共に、コロナの一刻も早い沈静化を願いたい。

我が社のおみくじには運勢「平」というのがある。「平穏無事」大変良い言葉である。

二 調神社

調神社宮司 吉田正臣

七五三時期の対応については、一度の祈願件数を最大十五件まで、七五三祈願については祝子本人と保護者一名のみ昇殿、初宮詣は祈願主(代表保護者)一名、お祝いの子と抱く方の計三名のみの昇殿他の祈願は祈願主一名のみの昇殿にてご協力をお願いしました。

年末年始の露店商の出店については、感染症予防等の安全対策と経済活動の両面を慎重に検討致し、本年十二月十二日の「十二日まち」は、東京の神社で行われた西の市を参考にさせて頂きました。

広報では十二日まち実行委員会による「十二日まち」の開催は中止としました。神社では、規模を縮小して代替え行事としました。神社境内では「大歳の市祭」として「かっこめ」(神札の付いたミニ熊手)及び神札類の頒布をし、露天商の出店は境内のみ件数を減らし、境内での飲食は禁止、持ち帰りのみの販売としました。

一方、「熊手市」は、「浦和熊手市」として隣接の調公園内にて開催し、露天商の出店者については、事

前に保健所の指導を仰ぐ様にしました。こうして熊手市は、準備を進めておりましたが、開催前々日の十二月十日の夜八時頃、放火により火災が発生してしまい、中止を余儀なくされました。



境内への入口は、神社正面のみ、出口は四か所に制限し、来場者へはマスクの着用、手指消毒をして頂き、健康のすぐれない方には入場をご遠慮頂きました。

正月体制については、「十二日まち」終了後数日、経過を見ましたが、特に問題を認められなかったため、その体制に補足する形で検討しました。

正月は、「十二日まち」よりも参詣者(来場者)が多いと推察できたので、境内への入り口を二か所、出口を三か所にして、来場者へはマスクの着用、手指消毒をして頂き、健康のすぐれない方には入場をご遠慮頂きました。ソーシャルディスタンスについては、境内の面積が狭く、道路上の列が長くなってしまふことが懸念されるので、明確な線引きは行わず、来場者個々に協力をお願いする形に致しました。

新年の会社・団体祈願は予約制なので、事前に一社あたり五名以内、一グループ二十名以内。一度の祈願は四団体まで三十名以内としました。恐らく完璧な感染防止対策は境内への立ち入りを全面禁止にする以外ないと思います。しかしながら、それでは折りの場が無くなってしまいます。日本には、古より触穢の対策

方法があります。これは正に疫病感染症の予防対策ではないでしょうか。このことについてでも再考察をする機会と なっていると思います。



三 川越氷川神社

川越氷川神社宮司 山田 禎久

新型コロナウイルスの感染拡大が地域と神社に齎した影響について、観光客数の推移・例祭・正月対応の三項目にわたり、以下に報告したい。

◇観光客数の推移

令和元年、川越市の入込観光客数は凡そ七七六万人。感染症の拡大が懸念されはじめた令和二年の年初一



閑散とする蔵の町並

月から三月の期間は前年比十一%減、四月から六月までは七六%減。そして七月は九三%の減であった。地域の商工業者にとり深刻な事態が続いている。

◇例祭

例祭の祭典については、参列者を各町氏子総代のみとし、規模こそ縮小したものの例年通り執り行われた。

例年十月に行われる国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産「川越氷川祭の山車行事(川越まつり)」は見送りと決定された。この祭りは、地域の人々が一年のうちで最も心待ちにする行事であるため、大きな喪失感が広く街中を包むこととなる。

神幸祭と山車曳行が取り止めとなる代わりに、神社として初の行事を試みた。例祭日夕刻、氏子各町内代表者が祭衣装に身を整え参集し神前にて「川越氷川祭中止奉告祭」を斎行した。その際、各町は高張提灯(山車曳行の際に曳き手の先頭を進む提灯)を高々と掲げ参列、その後五日間にわたり拝殿内にこの提灯を飾りつけた。氏子からは



殿内に飾られた高張提灯



高張提灯を掲げる氏子代表



川越氷川祭中止奉告祭

「祭りには決して断絶していないと実感し、安心することができた」と喜ぶ声が多く聞かれた。

◇正月対応

社殿内の過密を避けるため、令和三年正月は、例年よりも元朝祭期間を三倍ほどに延長した上で、前例にない形で祈願を受けつけた。

拝殿内に着席しての参列は全て中止とし、祈願は神職のみで斎行、祈願終了後に神札等の授与品を分かち形式とした。また、社頭だけでなくインターネットでも申込を受け、一月中旬以降、神札を受けに来社いただくこととした。

当社ではこれまで、直接社頭に足を運んでいただくことに重きを置いてきたため、今回も郵便による授与は執り行わないこととした。郵送での祈願を希望する意見も寄せられており、氏子崇敬者の利便性に配慮すれば、検討するべきであったかもしれないが、熟慮の末、これまでの方針を維持する判断をした。

なお、祈願申込者は神札を受けたのち昇殿し、玉串を供え、拝礼を行う形をとった。

四 秩父神社

秩父神社権補宜 網野直久

新型コロナウイルス感染拡大に対する対策は、いずれの神社に於いても、具体的施策を模索中であるというのが、現実であろう。

秩父市番場町鎮座の秩父神社(蘭田稔宮司)も、時処に応じ、試行を重ねながら取組んでいるところである。

○参拝者受入れ対策

参拝者との接触が最も多いのが神符守札授与所である。先ず飛沫感染対策として、授与所前面を透明ビニールシートで覆い、授与に当たる神職・巫女は、全員マスクで鼻口を覆っている。加えて神札・神守・御朱印帳・初穂料等の授受の際にウイルスが直接手指に付着しないよう、ビニールの手袋を着用している。また、要所にアルコール消毒液を弁備して参拝者に供し、職員自らも手指の消毒を励行している。祈願等昇殿者については、十八名の人数制限を設け、拝殿内に座る位置を示し、間隔を保っている。また、齋主が代表で拝礼、参列者は列拝とし、玉串拝礼を廃した。



拝殿飛沫対策



例大祭



座る位置を拝殿に示した

○例大祭及び御神幸祭の実施例

十二月三日に斎行された例大祭の祭儀自体は平常通りであった。但し、参列者は奉賛会長以下大総代及び大総代心得のみとした。佗人も最小限の人員とし、その周囲は、透明ビニールの衝立で覆い、奏楽に伴う飛沫拡散に対応した。

御神幸祭については、先ず、本来御神体奉遷の御神輿を唐櫃とし、奉担者を減員、多人数に依る密接を避けた。また、二基の笠鉾及び四台の屋台の曳行を前日の宵宮も含め、これを控えた。更に、二十六町会が、御旅所大前に献供する重餅や、周囲を囲む高張提灯も已む無く差し留めた。各二名ずつ、総員百四名の供奉奉持者を減じる為である。その他、経路を短縮し、奉仕者同志の接触時間の低減を図った。

御旅所斎場祭の参列者も例大祭本儀に準じ限定した。

○正月の対応策

一般参拝者については、例年設ける大賽銭箱前の鈴緒を撤廃し、参拝者の滞留軽減に努めた。

祈願者については、受付・神札記名・案内方法に工夫を施し、三十分間隔の祈願奉仕を保った。



祈願受付の正月対応



御旅所斎場祭

昇殿者の人数制限・座る位置・玉串拝礼については、前掲の通りである。

「変わらない祈りのために」キャンペーン活動報告

武田 淳

神社における新型コロナウイルス対策として、神社庁では「変わらない祈りのために」と題したキャンペーンを展開した。本キャンペーンは昨年四月に全国に緊急事態宣言が発出された際に、教化委員を始めとする管内神職や他県の神社庁役職員と意見交換し、企画を纏めた。今回の柱となるガイドラインの監修を感染制御学がご専門の東京医療保健大学の菅原えりさ先生にお願い出来た事は幸いであった。

本義を崩さない様しながら、感染対策を行う事を主眼にガイドラインを監修戴いた。その後チラシやポスター、柄杓を使わない手水の作法イラスト、足型（大阪府神社庁提供）、ピクトグラム・ポスター（神社本庁提供）、広報用動画などを作成し、埼玉県神社庁のホームページに公開して活用を呼びかけた。三十の都府県神社庁からキャンペーンの賛同を戴き、神社本庁や日本文化興隆財団にも協力戴きながらキャンペーンを展開した。また、賛同神社からの申し出により、協賛金をお預かりし、監修費や動画作成費などに充たさせて戴いた。

年末年始を安心してお参りして戴くために、九月から十月にかけて国や県などへ渉外活動も行った。また内閣府の「イベント開催制限等のあり方に関する検討会」では、ガイドラインの説明を行い、初詣の安全性について西村康稔新型コロナ担当大臣にご理解を戴いた。

十月末から十一月頭にかけては、ガイドライン説

明会をWEBと神社庁とで五回開催した。菅原先生にお願いし、前半は、新型コロナウイルスの基礎知識、後半は、ガイドラインについて解説をして戴いた。参加者からの質問に対する回答も、後日、ホームページにアップした。十月から年末にかけては、テレビ局や新聞社、雑誌社から連日の様に取材があり、ガイドラインの内容を中心に説明をさせて戴いた。不安と期待が混じり合う中迎えた年末年始であった。年末に感謝の祈りを捧げる方や破魔矢や干支物を授与された参拝者の方など、例年と違う景色を見ることが出来た。大晦日には東京都の感染者が千三百人を超えるという数字が発表され、日本各地は大寒波に襲われた。

初詣の状況などについては、現在アンケート調査を実施しているので、纏まり次第報告したい。KDDIによるGPSの調査結果によると、明治神宮は昨年と比べ減少率が七・二%、成田山新勝寺は六五・三%、武蔵一宮氷川神社は六二・一%であった。また、住宅街に位置する神社寺院も減少傾向にあるが、新興住宅街などにある神社では増加している所もあったという。

今後も神社庁では管内神社の護持発展の為に必要な施策を講じて参りたく存じます。なお、一月十五日現在、管内神社における罹患者は確認されていない。

(神社庁参事)



ガイドライン説明会 菅原えりさ先生



チラシ

ミニ講座「神主お悩み相談室 祭式編」報告

宮本 修

去る十一月十九日、埼玉県神社庁からWEBシス
テムを使用して、ミニ講座「神主お悩み相談室 祭
式編」と題して、十八名の参加もと講座を開催しま
した。

教化委員会主催のミニ講座は、前期からの取り組
みで、神職が社会人として資質の向上を図ることを
目的とし、普段、研修などに参加しにくい方にも配

慮して午後六時から行っています。本講座はこのこ
とを踏まえて、兼業神職や資格取得後など、奉仕の
機会が少ない方を念頭に置き、祭式編として企画し
たものです。講座申し込みの際に受講者から質問を
募集し、講師は、埼玉県神社庁祭式講師の高麗文

康・原泰明両講師に依頼した。
参加者の質問を抜き出してみると、

- 祭典で大事なことは何か
- 玉串の大きさの目安
- 神饌の盛り方、魚の縛り方
- 「お鈴振りの儀」の振り方
- 膝退の回転のコツ
- 前導所役の案内の仕方
- 大祓詞を大祓神事以外で奏
上するときとはどんな時か
- 祝詞の奏上の仕方（発声方
法、区切り方）
- 直会でビールや焼酎は出し
てよいのか
- 出張祭典での神饌献撤につ
いて
- 出張祭典における鎮座祭・
遷座祭・竣工祭・埋井祭・
上棟祭・伐木清祓について
- 参列者の服装について
- 初穂料の目安について



- 神葬祭関係について
- 新型コロナウイルスへの対応について
- 社殿にお花を供えてもよいのか
- 霊が見えるという参拝者が来た際の対応
などがありました。

真摯な相談からユニークな質問まで、両先生に神
社祭式の本義を前提に、お二人の見識や経験を元に、
時には見本を示しながら懇切丁寧にお答えいただき
ました。

結びに、今回は初めての企画のために、手探りで
進めました。まずは、受講生からのお悩みにお答え
いただく講師がいなくては成立しません。そんな中、
高麗・原両講師には快く引き受けていただきました。
事前打ち合わせを行い準備万端整え、無事終わらせ
ましたこと厚く感謝申し上げます。

(教化委員会研修部班長)

神道政治連盟埼玉県本部「時局対策研修会」報告

茂木 貞佳

今般の本研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、WEBシステムを活用した遠隔研修にて、九月三十日に開催された。講師には本連盟の推薦議員である山谷えり子先生、有村治子先生（共に参議院議員・神政連国会議員懇談会副幹事長）にご協力を仰ぎ、日頃の国政報告を交えつつ、自主憲法の制定をはじめとした本連盟の取り組み重要課題について理解を深めるべく行われた。

項目についても解説され、その重要性を訴えられた。第二講は「主権・憲法について考える」と題し、有村治子先生にお話しいただいた。

第一講は「時局と国家を想う」と題し、

山谷えり子先生にお話しいただいた。



山谷えり子先生

先生は、日本学術会議の在り方について、拉致問題対策本部長としての取り組みについて、GOTOトラベル

の修学旅行利用や地域活性化のためのマイクロツーリズムの推奨について、国際的な広がりを見せるSTEAM教育の宗教や神社が貢献できる可能性について、全国の学校に和室を設置し軸を掛け季節の花を飾り日本独自の文化に触れる教育の大切さについてなど、直近の取り組みを交えてわかりやすく解説された。

この他、我が国の安全保障に直結する所有者不明の国境離島対策や、自民党が提案する憲法改正の四



有村治子先生

冒頭、先生からの「あなたが考える主権とは何か」の問いに受講者が答えることから始まり、我が国の領土問題

について、戦後占領下から主権回復の歴史について、靖国神社参拝についてなどを詳細な資料と共に解説された。正しい主権の認識について、丁寧に説明された上での解説はともわかりやすいものであった。また領土・主権展示館の紹介、尖閣諸島における行政上の統治の有効性についても解説された。多角的な視野で主権を論ずることの大切さを通し、憲法改正の必要性を訴えられた。

本連盟には皇室の尊厳護持や憲法改正をはじめとする様々な取り組みがある。その活動の重要性を理解する一歩は、一人ひとりの当事者意識であることを改めて感じる研修となった。今後も多くの参加者と共に活動施策への理解を深めて参りたい。

(神社庁主事)

神宮大麻暦頒布始祭

藤野 泰 功

九月二十四日、神宮大麻暦頒布始祭が神社庁神殿において、大里児玉支部の奉仕により斎行されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、正副庁長と職員が参列しました。中山庁長が代表して玉串を奉りて拝礼、一同が合わせて拝礼しました。その後、神宮大麻暦が斎主から庁長、庁長から頒布奉仕者代表として高麗副庁長に授与されました。



また、神宮大麻暦頒布表彰の頒布優良支部並びに頒布特別優良従事者、頒布優良奉仕者への授与式は、已む無く中止となりました。書中ではございますが、各位に衷心より敬意を表し、お祝い申し上げます。

神宮大麻曆頒布始祭次第

時刻、参列者所定の座に著く是より先手水の儀あり
時刻、齋主以下祭員、参列者代表参進 是より先手
水の儀あり

次に齋主以下祭員、参列者代表所定の座に著く
次に修祓
次に齋主一拝

次に祭員神饌を供す
次に齋主祝詞を奏す

次に齋主玉串を奉りて拝礼

祭員列拝

次に参列者代表玉串を奉りて拝礼

神職列拝

次に祭員神饌を撤す

次に齋主一拝

次に副齋主 神宮大麻・曆を撤し仮案上におく

次に齋主 神宮大麻・曆を埼玉県神社庁代表に授く

次に神社庁代表者 神宮大麻・曆を頒布奉仕者代表
に授く

次に齋主以下祭員退出

〔奉仕支部 大里児玉支部〕

齋主 八幡神社

宮司 篠田 宣久

祭員 八幡大神社

宮司 宮崎 博之

祭員 佐谷田神社

宮司 川端 康稔

祭員 足高神社

宮司 高野 浩成

神宮大麻曆頒布表彰

頒布優良支部 比企支部

頒布特別優良従事者

入間西支部 高麗神社

宮司 高麗 文康殿

頒布優良奉仕者

秩父支部 寶登山神社

宮司 曾根原正宏殿

大里児玉支部 島護産泰神社

宮司 神島 歩殿

埼玉東支部 天満神社

宮司 関山 知彦殿

(神社庁録事)

立皇嗣の礼奉祝祭

秋篠宮殿下が皇嗣になられたことを、天皇陛下が
内外に広く宣明になられる「立皇嗣宣明の儀」が、
十一月八日に皇居で執り行われました。

神社庁におきましては、十一月十一日、神殿にて
立皇嗣の礼奉祝祭を斎行しました。高麗文康副庁長
が齋主を務め、埼玉県神道青年会の小林威朗会長他
四名が奉仕しました。武田淳参事が参列者を代表し
て玉串を奉りて拝礼、参列職員一同が合わせて拝礼
し、皇室の弥栄をお祈り申し上げました。

立皇嗣の礼奉祝祭次第

時刻、参列者所定の座に著く是より先手水の儀あり
時刻、齋主以下祭員、参列者代表参進 是より先手
水の儀あり

次に齋主以下祭員、参列者代表所定の座に著く

次に修祓

次に齋主一拝

次に祭員神饌を供す

次に齋主祝詞を奏す

次に齋主玉串を奉りて拝礼

祭員列拝

次に参列者代表玉串を奉りて拝礼

神職列拝

次に祭員神饌を撤す

次に齋主一拝

〔奉仕員〕

齋主 高麗神社

宮司

高麗 文康

副齋主 久伊豆神社

禰宜

小林 威朗

祭員 高麗神社

権禰宜

長田 愛樹

祭員 久伊豆神社
権禰宜 馬場 裕一
宮本 真臣



庁務日誌抄

Table with columns for date, event name, location, and other details. Includes entries like '過疎地域神社活性化推進委員会', '宮司代務者任命辞令交付式', '神宮大祓壇頒布施策', etc.

Notice section containing '神社庁研修所調育主任', '神社庁研修所研修講師', 'ミニ講座「キャッシュレス研修」開催のお知らせ', and '教養研修会開催のお知らせ'.

埼玉県神道青年会事業報告

プレ勉強会

「参詣の歴史でみる伊勢と埼玉のつながり」

埼玉県神道青年会では昨年度から二年間かけて、県内における参宮記念の石碑や灯籠などの「参詣資料」の調査・収集を網羅的に行ってきた。

この調査を通して、郷土の先人達の伊勢信仰や参宮に関わる民俗文化や宗教文化の一端を理解する事が目的である。

これに併せて、当会では今年度中に伊勢神宮研修旅行を計画しており、御師研究に携わる先生方からご講義頂く予定である。しかしながら新型コロナウィルスにより、研修旅行を中止せざるを得ない場合も考えられる。そこで、中止になってしまった場合に備えて、予め勉強会だけでもリモートで開催しようとして、十月六日に初のオンライン勉強会「参詣の歴史でみる伊勢と埼玉のつながり」が開催された。研修旅行でもお世話になる皇學館大学特別教授の櫻井治男先生と、元神宮職員で佐賀県呼子八幡神社宮司の八幡崇経先生を講師にお招きして行われ、十六名の会員が参加した。

始めに、馬場総務局員より現時点での参詣資料調査結果の発表があり、明治維新より昭和にかけて、日本経済の変動と社会の動き、それに伴った神社界と神宮、旧御師の活動が伊勢講結成増大と繋がっている事を言及した。

その後、櫻井先生の「神宮の御師と現在における伊勢信仰調査の意義」と題した講義が行われた。

古き時代から時を経て尚、参詣資料が今に至るまで現存できているのは、外的な衝撃にも折れる事なく、立ち直る事のできる「しなやかな強さ」(レジリエンス)によるもので、これは参詣資料調査をする上でキーワードであり、神道精神にも通ずると教えて頂いた。

小休止をはさみ次に、八幡先生による「伊勢神宮御師の北埼玉での活動」と題した講義が行われ、昭和時代まで埼玉県内の地域とも深く繋がっていた御師、「石井田家」の資料を元に進められた。

県内の講による奉納品や書物も資料として拝見させて頂いた。それら参詣資料は、その地域に住まう人々の伊勢信仰の歴史の証明でもあるという事を教えて頂いた。

埼玉県神道青年会が始まって以来、初めてのオンラインでの勉強会開催となり、モニター越しの慣れない環境で独特の緊張感もあったが、皆真剣な面持ちで参加しており、大変有意義な時間となった。

(研修副部長 田島 真希)

埼玉県宗教連盟主催「平和の祈り」

令和二年十一月九日、埼玉県宗教連盟主催「平和の祈り」に参加した。これは世界各地で起こる災害、民族紛争や宗教紛争、事件事故に向け、宗教の枠を超えて手を携え、平和でより住みよい世界の実現を共に祈ることを目的とするもので今回十八回目を迎えた。日本基督教団、立正佼成会、カトリック、埼玉県神社庁神道青年会、埼玉県佛教教会青年会、天理教の順にカトリック川越教会祭壇の前で平和を祈った。

キリスト教系が罪の告白と許しを請い神の救いを

願い、仏教系は行う法会の功德が一切の衆生にいきわたることを願い、天理教は言葉と楽・手踊りを捧げることで祈られた。当会は齋主小林威朗会長、副齋主押田健太郎事務局長、祭員新井聡、典儀茂木貞佳埼玉県神社庁主事が奉仕した。そして、天照大神を始めとする八百万の神、戦後七十五年にあたり英霊に対し、誠心と言葉を尽くし、御奉仕することと平和を祈った。

閉会の挨拶で、埼玉県宗教連盟副理事長加藤智神父は各団体の祈りから共通して「神仏の眼差し」の中にあることを感じる事が出来たと述べられた。「祈る」という行為は信仰されてきた風土や歴史の結晶である。この結晶の相違点を共有し、他を認めることこそがこの会の核であり、平和な世に繋がるのであろう。

(会員 新井 聡)

立皇嗣の礼奉祝祭

令和二年十一月十一日、埼玉県神社庁神殿において「立皇嗣の礼奉祝祭」が斎行され、埼玉県神道青年会が助勢奉仕いたしました。

「立皇嗣の礼」は皇位継承に関わる重要な儀式であり、それを奉祝する祭祀に私のような若輩者が携わっていいものか悩んでおりました。ですが、またとない貴重な機会だと思い奉仕させていただくことにしました。

始めはお会いした事の無い方々と息を合わせた奉仕ができるか不安で仕方がありませんでした。しかしながら、習礼では先輩方に丁寧にご指導いただき、不安も解消されました。

祭典は齋主の高麗文康副庁長の拝揖に始まり、玉

串拝礼を以って滞りなく無事に執り納めることができました。

新型コロナウイルスの影響もあり、盛大に執り行うことはできませんでしたが、厳かな雰囲気の中、奉祝祭という貴重な祭典に奉仕できたこと、感謝の念に堪えません。またこのような機会がありましたら是非奉仕させていただきたいと思っております。

最後になりますが「立皇嗣の礼奉祝祭」をもちまして我々神職だけでなく国民の奉祝の念が皇室に届き、より一層、伝統ある歴史が紡がれますよう心よりお祈り申し上げます。
(会員 宮本 真臣)

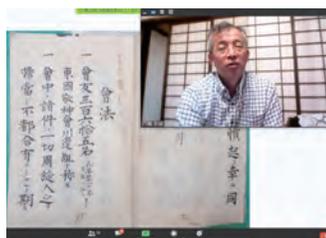
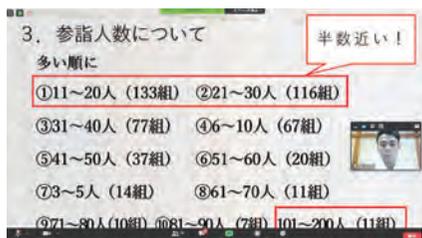
臨時総会

令和二年十一月二十七日、武蔵一宮水川神社大ホールに於いて「臨時総会」が開催されました(会場とウェブオブザーバーのハイブリッド)。議事では次期会長として鈴木智之副会長が推挙され、満場一致で可決されました。

彼は、独自の発想力と後輩から慕われる人間性、そして静かな熱意を合わせ持つ人物であり、この困難な社会情勢においても当会をよりよい方向に進めてくれると信じています。

今後も当会に対する変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。
(会長 小林 威朗)

※埼玉県神社道青年会では Facebook による情報発信を行っております。



プレ勉強会「参詣の歴史でみる伊勢と埼玉のつながり」



埼玉県宗教連盟主催「平和の祈り」



臨時総会(鈴木智之次期会長)



立皇嗣の礼奉祝祭